

春に 谷川 俊太郎

一 新出漢字と読みがなを五回ずつていねいに書こう。(書き順は教科書 278 ページを見て覚える)

渦潮 うずしお					
---------------------------	--	--	--	--	--

二 教科書 16 ページ～17 ページの詩を声に出して読んでみよう。(三回読んで、○をつけよう)

一回目		二回目		三回目	
-----	--	-----	--	-----	--

三 対比(対照的な言葉)や、比喩表現(たとえた表現)を抜き出そう。

- ・ 対比(対照的な言葉)
例 よろこび・かなしみ
- ・ 比喩表現(たとえた表現)

四 一行目・六行目・十四行目・二十四行目と、四回繰り返される「この気持ちはなんだろう」の中から、最も共感できるのは、何行目か考え、その理由も書こう。

・ 最も共感できるのは、 行目 ・ その理由

五 作者の思いが伝わるように読むための工夫を、ア～エの中から二つ以上選んで書こう。

- ア () を強く読み、() を弱く読む。
- イ () を速く読み、() をゆっくり読む。
- ウ () の前に、間をとって読む。
- エ その他の工夫↓ () を、() を読む。

六 “五”で考えた工夫をして読むことができたか評価しよう。

〈評価する方法の例〉「録音して聞く」「自分の声を聴きながら読む」「家族に聞いてもらう」等

自分の評価

〈評価：A よくできた B だいたいできた C できなかった〉

握手 井上 ひさし

○ 新出漢字の読みがなを五回ずつていねいに書こう。(書き順は教科書 293 ページを見て覚える)

洗濯 せんたく					
稲健 おんけん					
鶏舎 けいしゃ					
爪を切る つめをきる					
墾田 こんでん					
監査 かんさ					
家督 かどく					
帝王 ていおう					
泥水 どろみず					
傲然 ごうぜん					
捜査 そうさ					
助長 じょちょう					
同姓 どうせい					
忌中 きちゅう					

握手 井上 ひさし

○ 新出音訓と読みがなを五回ずつていねいに書こう。(書き順は教科書 293 ページを見て覚える)

しろもの 代物					
ぶんかつ 分割					
ゆいごん 遺言					

二 辞書やインターネットを使って意味を調べたり、反対の意味の言葉や短文を書いたりしよう。

ページ	調べる言葉	調べた意味や、考えた短文
18	達者(たっしや)	【意味】
18	年季(ねんき)が入る	【意味】
19	気前(きまえ)がいい	【意味】
20	精(せい)を出す	【意味】 【短文】
20	奇妙(きみよう)	【意味】
22	…(の)わりに	【意味】 【短文】
23	せわしい	【意味】
23	こたえる	【意味】
24	地道	【意味】
24	いとまごい	【意味】
25	平凡	【意味】 【反対の意味の言葉】
26	むやみに	【意味】 【短文】

握手 井上 ひさし

一 「わたし」や「ルロイ修道士」の置かれた状況に着目しながら本文を黙読し、心に残った表現や、登場人物の発言を抜き出そう。また、なぜその部分が心に残ったのか、理由も書こう。

【心に残った表現や発言】

【その理由】

二 三回の「握手」をした時の状況と「わたし」の感じたことをまとめた次の表のあいっているとこ
ろをうめて完成させよう。

	ページ・行	握手をした時の状況	ルロイ修道士 の思い	「わたし」の 感じたこと
一回目	18 ・ 11	○ ルロイ修道士は大 きな手を差し出して きた。 ○ 思わず顔をしかめ た。		○ 彼の握手は万力より も強く、しかも腕を勢 いよく上下させるか ら、腕がしびれてしま う。握手したくない。
二回目	19 ・ 16	○ ルロイ修道士は机 越しに握手で迎えて …… ○ 彼の握力は万力よ りも強く ○ 勢いよく上下させ るものだから、……	○ ようこそ光が丘天使 園へ。これからは私が 守りますから、何の心 配もいりませんよ。	
三回目	26 ・ 20	○ それからルロイ修 道士の手をとって、し っかりと握った。 ○ それでも足りずに、 腕を上下に激しく振 った。		

握手 井上 ひさし

三 ルロイ修道士の生き方について、あなたはどのように感じましたか。自分の生き方と比べて考えたことを書こう。

漢字を確認しよう。

○ 新出漢字と読みがなを五回ずつていねいに書こう。(書き順は教科書 278 ページを見て覚える)

愼重 しんちょう					
懇願 こんがん					
徹底 てってい					
撤回 てっかい					
懷妊 かいにん					
妊娠 にんしん					
満悦 まんえつ					
情弱 だじゃく					
憩いの場 いこば					

○ 新出漢字と読みがなを五回ずつていねいに書こう。(書き順は教科書 278 ページを見て覚える)

挙措 きよそ					
拘禁 こうきん					

漢字を確認しよう

新しく習った漢字

1 次の――線部の言葉を読もう。【漢字の読み】

- 「ア ギターを爪弾く。」
- 「イ 慎重に爪を切る。」
- 「ア 山の麓で鶏を飼う。」
- 「イ 鶏卵を出荷する。」
- 「ア 彼は穏やかな人柄だ。」
- 「イ 穏便に話し合う。」

2 次の□に合う漢字をへ へから選ぼう。

【同じ音読みの漢字】

- ①カンへ監・鑑へ
ア □ 賞
イ □ 査
- ②コンへ墾・懇へ
ア 開 □
イ □ 意
- ③テツへ徹・撤へ
ア 貫 □
イ □ 去
- ④ニンへ任・妊へ
ア □ 娠
イ □ 務

3 次の――線部はへ へが部首の漢字である。それぞれ

の熟語を読もう。

①へ心へ

- 「忌避」
- 「悦楽」

- 「怠惰」
- 「休憩」

②へ手へ

- 「捜査」
- 「拘束」

- 「措置」
- 「

新しく習う音訓

1 次の文に合う言葉をへ へから選ぼう。

【同じ訓読みの漢字】

- ①朝日にへ生える・映えるへ花の姿。
- ②夜が明けへ初める・染めるへ。
- ③作家が自分のへ生い・負いへ立ちを語る。
- ④大勢の人を見て、気へ遅れ・後れへする。